

# 平成26年度 病害虫発生予察情報

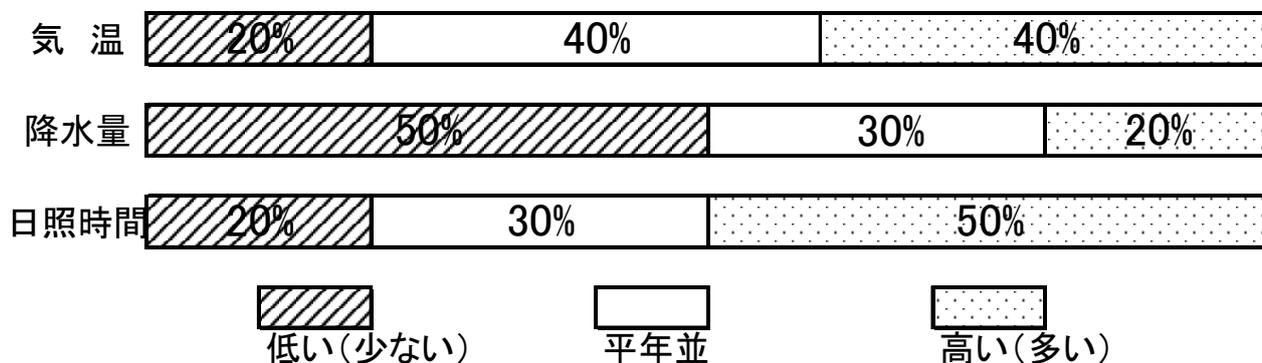
## 発生予報第3号（6月）

平成26年 5月30日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ ニカメイチュウ イネミズゾウムシ	平年並 多い やや少ない
果樹	ナシ	黒斑病 黒星病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	少ない～やや少ない やや少ない 平年並 平年並
野菜	カキ	ハダニ類 カキクダアザミウマ	平年並～やや多い 平年並
	タマネギ	ポトリス属菌による葉枯れ べと病 腐敗病・軟腐病	やや少ない 平年並～やや多い 平年並～やや多い

中国地方1か月予報(5月31日～6月30日・広島地方気象台5月29日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) ヒメトビウンカ

#### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

#### 予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.02頭/50株当たり（平年0.02頭）、発生圃場率は2.38%（平年1.45%）で発生量はほぼ平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

##### (2) ニカメイチュウ（第1世代）

#### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 やや早い  
発生量 多い

#### 予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は出雲市では5月第1半旬でやや早く、第5半旬までの誘殺数は平年に比べて多い。
- ② フェロモントラップの第5半旬までの誘殺数は平年に比べて多い。
- ③ 前年の第2世代成虫の誘殺数から越冬量はやや多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 遅い  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第2半旬で遅く、第5半旬までの誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ② 前年の新成虫の誘殺数は平年比10.8%で、越冬量は少ないと考えられる。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯  
発生量 少ない～やや少ない

予報の根拠

- ① 5月28日の巡回調査（安来地区）では、発病葉率0.9%（平年2.0%）であり、発生量は平年と比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 5月28日の巡回調査（安来地区）では、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生に抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① フェロモントラップでの初飛来日は4月10日で平年並みである。
- ② その後、4月中旬より気温が低く誘殺が認められなかった。
- ③ 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並み、越冬量は平年並みと考えられる。
- ④ フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
- ⑤ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① フェロモントラップでの初飛来日は4月10日で平年並みである。
- ② フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

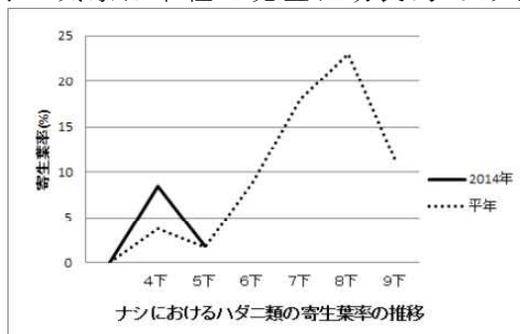
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。

② 5月下旬の巡回調査（安来市）では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は2.8%（平年2.8%）と平年並みである。

③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① 5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。

② 5月13日の巡回調査では本種による巻葉被害が認められた。

③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率11.1%（平年22.8%）、発病株率0.11%（平年0.6%）と平年に比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率63.0%（平年38.1%）、発病株率9.8%（平年6.1%）と平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 巡回調査地点における5月下旬の発生量は、発生圃場率25.9%（平年32.5%）、発病株率2.6%（平年1.5%）と平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

**農薬の安全使用の徹底を！**

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

**島根県病害虫防除所**

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp